

平成18年3月経営協議会議事録

・日 時 平成18年3月27日(月) 14時55分～17時20分

・場 所 京成ホテルミラマーレ ローズルーム

・出席者 古在学長, 早川, 伊集院, 白戸, 井上, 伊東, 土屋, 松本, 山根, 天野, 宮崎, 藤井, 藤澤(武), 堀, 山口, 石垣, 藤澤(英)各委員
(欠席: 川並, 有馬, 石橋各委員)

・審議事項

1. 中期目標・中期計画の変更について(総人件費改革関係)

学長から中期目標・中期計画の変更について(総人件費改革関係)審議願いたい旨提案があった後, 山根理事から資料に基づき説明があり, 意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり

- ・必ずしも, 文部科学省の指示ではなく, 教育・研究の高度化, 業務効率化の方策, 千葉大学具体的判断を示した方がよいのではないか
- ・4月以降に設置する予定である「将来構想委員会」において, 種々対応したい。
- ・人件費を減らす事であって, 人員を削減することではないと考える。
- ・単純に人員を削減するのではなく, 「将来構想委員会」等の検討等踏まえ, 重点分野等を視野に入れ考えていく。

2. 平成18年度計画について

学長から平成18年度計画(案)について審議願いたい旨提案があった後, 天野理事から資料に基づき説明があり, 意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり

- ・本計画(案)が確実に実行出来るのか。また, 責任体制はどのようになっているのか。
- ・各理事及び副理事がそれぞれの項目について担当している。また, 来年度設置を計画している種々の企画室において, 教員と事務一体となって運営に携わることとしている。
- ・今後, 入学志願者にアピールをする必要がある。また, 受験生(学生)の確保が大事である。
- ・これまでも高大連携, 入試関連情報の充実, いわゆる出前授業等を行ってきたが, 今年度はより充実した広報活動を展開することとしている。
- ・奨学金制度の充実を図っていく。
- ・授業料免除等特待生制度の設置を戦略として考えてはどうか。競争的環境

の中において、今後、必要と考える。

- ・千葉大学基金を設置する予定であるが、特待生制度について検討していきたい。
- ・自治体が困っている医師不足の問題について、18年度計画に触れられていない。どの様に取り組（姿勢）んでいくのか。
- ・医師、看護師等医療関係職員不足は、学内においても深刻な問題と認識しているが、医師養成制度、医局等の状況が変化し、若い人材の確保が困難となっている。
- ・研究費等が削減される状況において、教育・研究に資する部分が見えてこない。
- ・具体的なものは今後公表する。本計画（案）はあくまでも、文部科学省への提出資料であるため、抽象的なものとなっている。
- ・各学部の事務部とはなにか。
- ・総務（庶務）、経営、学務（教務）に関する学部等の事務を担当している。
- ・部局事務の一元化（集中化）は可能か。
- ・現在、契約事務の一部を事務局に集約している。なお、各部局等の教員の利便性等考慮し、更なる一元化を検討したい。

3. 就業規則改正案について

学長から4月1日付けで改正予定の就業規則のうち、給与規程、退職手当規程、非常勤職員就業規則、医員等就業規則の改正案について審議願いたい旨提案があった後、山根理事から資料に基づき説明があり、意見交換が行われた。

主な意見は次のとおり

- ・手当と称するものが多いと思われる。民間等ではこれらを給与に含め、会社に対する貢献度、実績に応じ給与が支給されるものと思う。本改正については良いが、今後検討してはどうか。
- ・支出に関しては、計画等によく示されているが、収入についてはどうか。構想はあるのか。
- ・収入に関しては、共同研究、受託研究、奨学寄附金等の外部資金の増加を図っていきたいと考えている。
- ・4月以降、千葉大学としての方針を示したい。
- ・現行の号俸を4分割する目的は何か。
- ・従来の特例昇給制度が廃止となり、普通昇給が5段階に区分される。例えば特に優秀な者は8号俸、優秀な者は6号俸の昇給とる。
- ・公務員給与制度に準拠しつつ総人件費5%削減を視野に入れている。
- ・実態に応じた弾力的な給与体系を作るべきではないか。
- ・今回の給与改定は全て公務員に準拠しているのか。
- ・地域手当の支給率、大学院手当、看護師の夜間看護手当、非常勤職員の給与改定、医員等の給与改定は本学固有のものである。

4. 役員退職手当の算定に伴う業績勘案率について

学長から平成18年3月31日付けで退任する理事及び監事の退職手当算定に伴う業績勘案率について審議願いたい旨提案があり、審議の結果、業績勘案率を1.0とすることとした。

最後に古在学長から委員に対して、謝辞が述べられた。

以 上